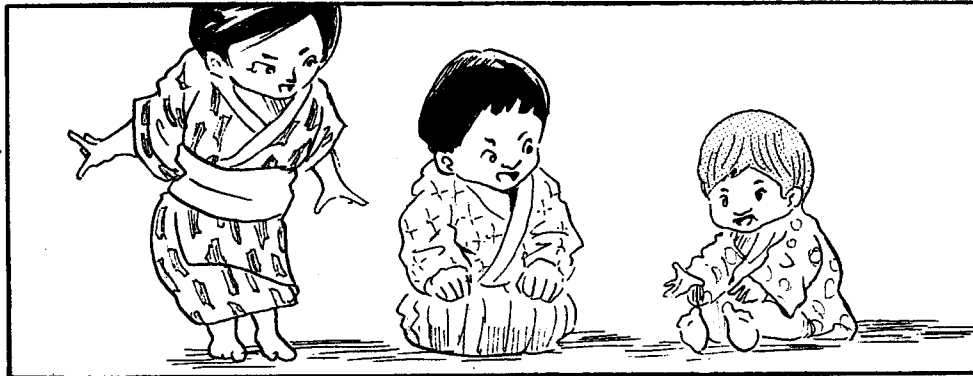


田中彫刻記

でんちゅうちょうこくき

第十話 ~ 塑像研究への決意 ~

作 ©いとうたかし



ときめいじ
時は明治から大正に
かわり、大正元年、
たかたろうじじよ、たかこ
倬太郎に次女の京子が
生まれました。

※塑像…粘土で作った像のこと。

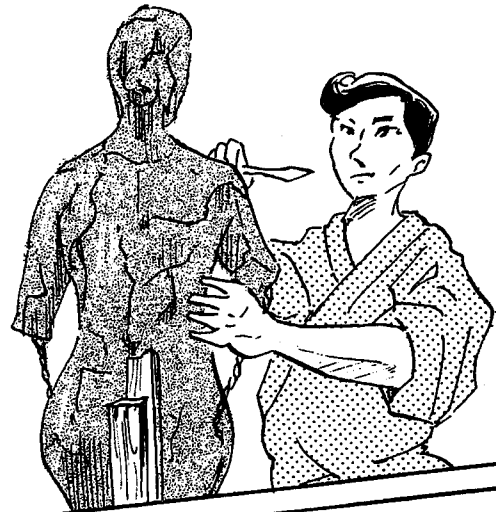


木彫家の作品は
リアリティが
ないねえ

もの見て
膨つてんのか

まったくだ!!

ときにそれぞれが対立する構造でした。

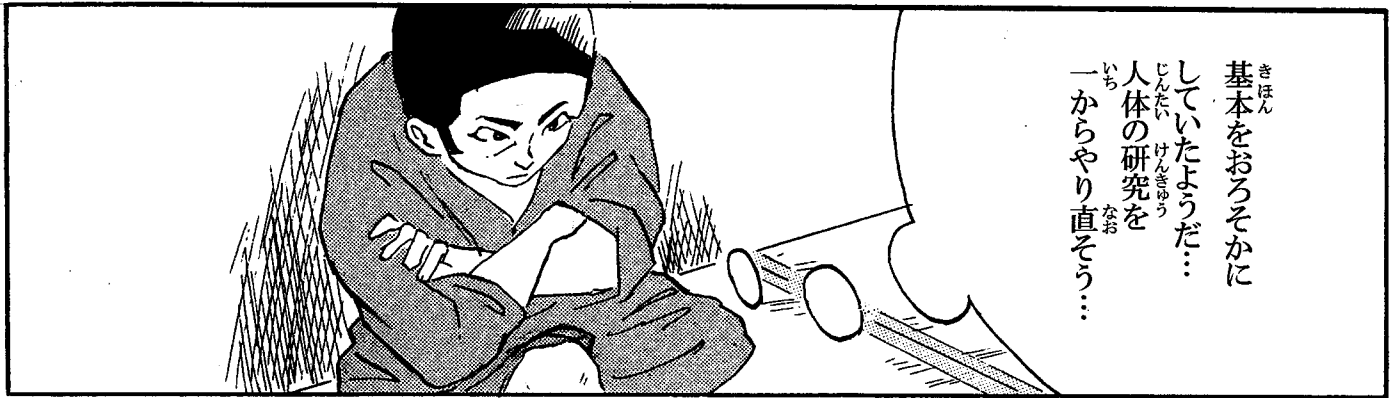


彫刻界は、西洋から新しく入ってきた塑像を勉強する
人たちと、伝統的な木彫を勉強する人たちに分かれ、



人体の構造…





基本をおろそかに
 していたようだ…
 人体の研究を
 一からやり直そう…



この頃、日本美術の研究機関である
 日本美術院が再興されることとなり、
 その中心となったのは、
 日本美術院の創設者である
 岡倉天心の教えを受けた者たち
 でした。

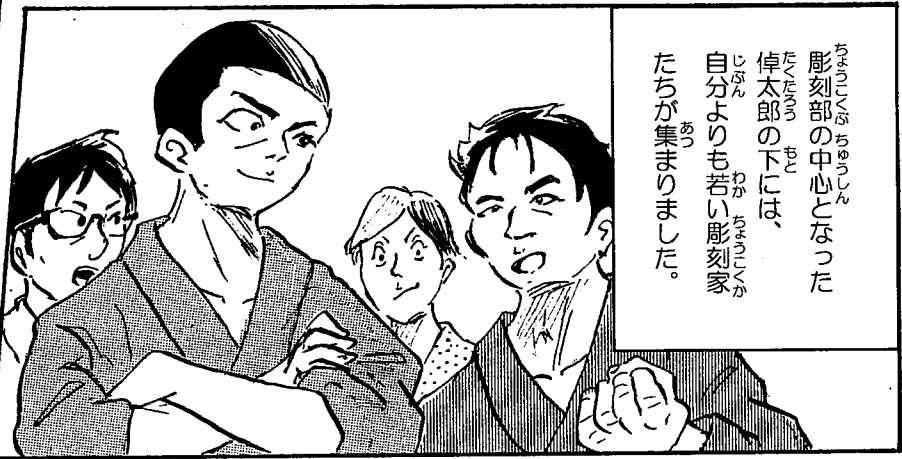


かくして、塑像の研究が
 始まりました。

ここからだ…



経営を担っていた
 日本画家の横山大観に
 許可をもらい、
 日本美術院の彫刻部の
 中に、塑像の研究所を
 作りました。



彫刻部の中心となった
 俣太郎の下には、
 自分よりも若い彫刻家
 たちが集まりました。